

Iwaino Daichi

# いわいの大地

農家と農業委員をつなぐ広報誌



## 活力ある一関農業へ 共に考える



### 市長と農業委員との農政懇談会開催

市長と農業委員との農政懇談会が1月29日、アイドームで開催され、農業者の現状と課題を共通認識し、今後の農業振興について理解を得るため、農業委員が農業現場からの声を直接、市長へ届けました。市側からは、市長、農林部幹部職員らが出席し、初めに農林部長から、当委員会が

11月25日市長へ提出した「一関市の農業・農村振興施策に関する建議書」に対して施策の内容と考え方の説明を受けました。委員からの意見と市側からの回答は左記のとおりです。今回の意見交換を踏まえ、一関の農業の発展のため、今後も共に協力していくことが確認されました。

### 農業委員からの主な意見と市の回答

**委員** 産地直売所やインショップの直売コーナーの出店意欲のある農業者は多い。市として実態調査をして、支援をお願いしたい。

**市** 産直は、まさに「地産地消」の拠点として重要な役割を担っており、産直の活性化が地域を元気にすると認識している。産直の実態については、産直の協力を得なければならないが農業者の所得確保の一つの手段として今後も支援していく。

**委員** 遊休農地とともに空き家も増えつつある。空き家を若者の新規定住・就農へ、また元気な高齢者の地域活動の核へ活用し周辺農地の遊休農地解消もセットで実現願う。

**市** 若者の新規定住については空き家バンクの登録物件や移住・就農を促進するために定住・就農支援員を配置している。「地域づくり活動支援員」や「緑のふるさと協力隊」による地域支援事業をもっと活用してほしい。

**委員** 味噌・醤油をはじめ世界的な和食ブームにあっても、麦大豆は海外に依存する一方で、荒れる農地は増加をたどっている。大型機械を導入し貸し出して、耕作放棄地の解消を図り、麦大豆の生産面積の拡大をしてはどうか。

**市** 中山間地域等直接支払制度に取り組む集落では共同機械としての導入は可能。耕作放棄地対策としては、再生利用緊急交付金の活用を促していきたい。

**委員** 使われていない市有建物を農産物加工のトレーニングの場としての活用や園芸施設の団地化など就農環境整備への支援に生かしてはどうか。

**市** 6次産業化のための研修を独自のプログラムで実施し成果を上げてきており、さらに、取り組みを強めていきたい。



意見を述べる遠藤勝幸委員



ichinoseki

がんばる  
地域

担い手紹介



自園芸振興に強い味方 ● ハウス建設組合

# いわいの大地で ハウス作りと仲間づくり

未曾有の大震災から5年、建設業者が災害復旧工事による慢性的な人手不足で、依頼されるハウス建設にまで手が回らない状況の中、若い農業者の仲間が集まり、離農した農家から使われなくなったハウス材を譲り受け、新設しながらの農業用ハウスを作り始めている。

雪が散らつき始める12月から2月中旬、トマト生産者を中心に若手農業者（平均年齢36歳・20名）が、再利用できるハウス材の運搬、解体のほか、建設する時には補強材を入れるなど独自のアイデアで作っている。

初期の投資を抑えられ、危険な高所作業やハウス屋根のビニール掛けなど、若手が行動し生産者を支えており、新規就農者や規模拡大する生産者、何よりも高齢生産者に喜ばれ、市内はもとより市外からの依頼もあり期待されている。

参加しているメンバーからは、「若い人達が集まっていることをアピールして若い農業者を増やしたい。産地を維持したい。トマト栽培で困っている



ことや分からないことから、経営まで話せる場、研修生が栽培基礎知識を話せる場として、栽培者同士、仲間と話していると寒さも気にならない。やる気のある者歓迎。使わないハウスがある方が一報くださいと話しており、熱い意欲に春を感じる。



## 定年帰農・定年就農も 地域農業の一つのスタイル

投稿 佐藤久仁子 委員

女性  
農業委員  
リレー投稿

私が花卉栽培を始めてから20数年が経ちます。以前、我が家では水田と葉たばこ80アール程を耕作しておりましたが、働き手の中心であった義父がなくなり葉たばこ耕作はやめざるを得ない状況になったとき、私自身は、いまさらパート勤めでもなかりとりんどう栽培を始めました。

その後、小菊にもチャレンジしてはみたものの作業が集中して断念するという体験もしております。

産地形成をはかる上では、花卉でいえば小菊、りんどうのような特定品目で多くの収入が望まれるものでなければなりません、そのためには、労働力が集中する時期に人手の確保を円滑にできることがどの生産者にとっても大きな問題です。

いま、グリーンヘルパー制が置かれ、この事業のより有効な活用が図られるように望むものであります。

定年帰農をすると決めていた夫は、定年1年前にはりんどうを増反し、着々と経営基盤の整備を進め、退職とともに完全就農できる体制をとりました。

現在は、米と花卉（りんどう、スターチス、ストック）の組み合わせで60代夫婦2人の労働力を最大限発揮してがんばれる範囲で営んでいます。

今、農業を取り巻く状況は厳しく、後継者対策が叫ばれておりますが、なかなか特効薬は各地で見いだせていない状況にみえます。

我が地域でも、確実に農業従事者の平均年齢は年とともに高くなり、農地の質的状況も低下傾向にあることは、農地パトロールで地域を回って改めて認識させられました。

夫の定年帰農を機に規模拡大を図り、一つの専業農家としてのスタイルを整えつつあることから、次の世代にこの地域を引き継いでいく一つの方策として、定年帰農、定年就農という形で小刻みながらも地域の農業を担っていく、ということにも本気になってこの地域で取り組んでみる価値があるのではと思う、今日この頃です。



# 遊休農地活用にご協力を

後継者等が無く草刈等の管理がされていない農地や山林原野化し作付けができなくなった農地を重点的に、各地域毎に班編成し、農地利用状況調査と荒廃農地調査の補完調査を併せ、27年度は藤沢地域を中心に、2,471筆、324haを確認するとともに周辺農地の状況も確認しました。

その結果、再開、保全管理された農地が、156ha、荒廃農地と判断した農地の内、簡易な作業で耕作管理が可能と判断した農地が22ha、すでに山林・原野化していて農地への復元が困難と判断した農地が137haとなりました。今後は耕作者等の意向を把握し、耕作の再開や農地中間管理機構への貸付等、意向に沿って遊休農地の活用を積極的に進める必要があります。

(面積は単位：ha)

年度	調査		荒廃農地				転用・適用外等		解消	
			再生可能農地		再生困難農地				改善 (再開・保全管理)	
			筆数	面積	筆数	面積	筆数	面積	筆数	面積
H24	3,199	600	1,198	249	448	175	50	4	1,503	172
H25	3,332	578	672	90	877	263	51	4	1,732	221
H26	2,612	328	745	89	880	116	79	8	908	115
H27	2,471	324	186	22	1,126	137	128	9	1,031	156

市内全域の農地を対象とした平成27年度の農地パトロールを11月4日から30日にかけて11日間実施しました。

## 農地パトロール結果

## 人力は二本化へ・機械は据置き

2月12日、農作業標準賃金審議会を開催し、農家代表として委託者、受託者計16名、農業関係団体から5名合計21名の委員が、賃金動向や農業機械・燃油等の価格動向を勘案しながら新年度の農作業標準賃金を審議しました。その答申を受け、同月19日の第4回農政専門委員会で確認し、同月24日の第6回農業委員会総会において決定されました。

平成28年度  
農作業標準賃金決定

委託側、受託側双方から、人力賃金の注意喚起を表示すべきとの多くの意見が水田、畑、果樹作業の各作業区分をなくし、水田作業を日額6,300円に増額改定し、それに合わせて畑、果樹作業を引き上げること、また機械料金は、据置きが妥当で意見集約されました。委員からは、コンバイン作業を委託する際に、水田の状態によって作業効率はかなり違うため、圃場環境へのさらなる賃金表は、人力賃金の水田、畑、果樹作業の各作業区分をなくし、人力作業として一本化し、県最低賃金等の上昇を考慮し日額6,300円に増額改定する

- ◆ 機械料金は、据え置きを基本とする
- ◆ コンバインの摘要欄へ作業基準を「※安全に効率よく機械作業ができる水田を基本とする(倒伏・雑草繁茂・排水不良など水田の状態によっては加算される場合があります)」と表示する
- ◆ 牧草作業に「集草」の項目を追加する

標準賃金表は、あくまでも「目安」を定めたものです。実際に作業料金を決める時は、集落等の実情や圃場条件、作業内容を委託者と受託者で十分話し合い調整して決めてください。



2月12日に開催された農作業標準賃金審議会

# 農業者年金で明るい将来計画!

## 1 幅広い方が加入でき脱退も自由!

加入の要件は下記3つ

- ・国民年金第1号被保険者であること
- ・60歳未満であること
- ・年間60日以上農業に従事していること

## 2 家族ひとりひとりが自分の年金を掛けられます!

女性は男性よりも平均寿命が6年長いと言われています。男性の世帯主の老後だけでなく、奥様や後継者の将来についてもじっくり考えましょう。

## 3 安心の積立方式・確定拠出型!

安全・安心を優先して可能な限りの利回りを確保する長期運用。毎年6月に加入者の皆さんに運用結果をお知らせします。

## 4 保険料は自由に選択!

負担を軽くしたり、積み増ししたり…いつでも見直し可能です。

## 5 全額社会保険料控除で大きな節税効果!

支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象です。ご家族の方の保険料も一緒に申告すればさらに大きな節税に。

## 6 80歳までの保証付き!

農業者年金は終身受け取りができ、80歳前に亡くなってしまった場合でも死亡一時金をご遺族に支給されます。

## 7 若い担い手の方には国庫補助!

20年以上の加入が見込まれ、認定農業者等の要件を満たす方には最大半額の国庫補助があります。



## 農業者年金を掛けてよかった!

【千厩地域】  
金野 常雄さん

貰い始めて約2年。気兼ねなくお金を使え、生活に安心感があります。最近は1歳の孫にプレゼントを買って喜ばれました。年金を貰う年になってありがたさが身にしみて分かります。息子夫婦にも勧め加入に至りました。若い人も将来のことを考え、ぜひ加入してほしいです。



Q 農業者年金を掛けていて良かったと感じる時は?

A 気兼ねなくお金を使える時です。最近は孫にプレゼントを買いました。生活に安心感があります。

Q 平成23年2月に息子さん夫婦も加入しましたが、常雄さんの勧めですか?

A そうです。農業者年金の良さを身をもって感じているので勧めました。地元の農業委員さんの協力もあり、加入に至りました。

Q 加入していない人に伝えたいことは?

A 将来のことを考えてほしいです。やはり国民年金だけでは生活が不安です。私も年金を貰う年になってより一層ありがたみを感じています。



## 全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、  
農業委員会または各支所産業経済課まで

購読料

月額 700円

編集後記



私たち農家にとって待ちに待ったうれしい春がやってきました。

前号からリニューアルされた農業委員会だより「いわいの大地」では各地区担当の新農業委員名簿が掲載され、私も皆さんに「広報見たよ」と声をかけていただきました。たくさんの方々にも広報誌を見ていただいていることを嬉しく思いました。

でも、農業委員ってどんな仕事をしているの?という質問がありました。

主な仕事は、農地の貸し借りや、所有権の変更等農家からの様々な申請を総会で審議。荒廃農地の調査、農地を宅地等に転用する場合の現地確認調査など。また、農家の収入安定のため農業者年金加入の推進などです。

新人委員の私にとっては毎月勉強させていただくことばかりです。

この「いわいの大地」もたくさんの方々に見ていただいていることを励みに、一関市の農業について発信していきますので、どうぞよろしくお願いたします。

佐藤 圭一

「いわいの大地」編集委員会  
編集委員長 伊藤 勉

副編集委員長 佐藤 修

編集委員

芳賀 武郎

菅原 豊一

藤野 真喜

遠藤 勝幸

皆川 清喜

佐藤 圭一

